

# 4 各教科等の指導のポイント

## 国語

### 児童生徒が身に付ける資質・能力を自覚して言語活動に取り組む授業づくり

#### 授業づくりのポイント

※数字は授業の例と対応

- ① 資質・能力の系統性を踏まえて、指導事項が示す内容を適切に理解し、単元で育成を目指す資質・能力の焦点化を図る。
- ② 児童生徒が学習課題の解決に向け、見通しをもって粘り強く試行錯誤を重ね、資質・能力を身に付けることができる言語活動を設定する。
- ③ 目標を達成した児童生徒の姿を指導事項に照らして具体的に想定し、それに基づいて児童生徒の学習状況を見取り、適切に評価したことを指導に生かす。
- ④ 児童生徒が話や文章の解釈、表現した内容等について、言葉に着目して粘り強く吟味できるような手立てを工夫する。
- ⑤ 児童生徒が学習課題の解決に向けた学びの進捗状況を自覚するとともに、次の学びへつなげることができるよう、自己の学習状況を振り返る場面や視点を適切に設定する。
- ⑥ 児童生徒が目的に応じて、学校図書館やICT等を自ら選択し、活用する場面を単元の学習過程に計画的に設定する。

#### 生徒が身に付ける資質・能力を自覚し、見通しをもって学習に取り組む授業の例

中学校第3学年 「書くこと」(全5時間)

単元名 「秋田の未来を考えて新聞への投書を書こう」  
～資料を適切に引用し、分かりやすく書く～

◇単元の目標(一部)

資料を適切に引用するなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等】B(1)ウ

◇本時のねらい(本時3/5)

資料を適切に引用し、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫して文章を書くことができる。

◇本時の評価規準【評価方法】

信頼性の高い資料を引用し、その内容と自分の考えとの関係を明確にして下書き原稿を書いている。

【思考・判断・表現】B(1)ウ 【投書の下書き原稿】

単元名「本単元における課題解決的な言語活動」  
～単元で育成を目指す資質・能力～

この単元において、どのような資質・能力を身に付けるのか、そのためにどのような言語活動を行うのかを、生徒が分かるような単元名にすることが有効です。 ①②

#### 生徒が本時のねらいを理解して、自らの表現を再検討する場面

学習課題 資料を適切に引用し、自分の考えが分かりやすく伝わるように、どのような工夫が必要かを考えて下書き原稿を書こう。

T: 次の文章を例にすると、どのような工夫が考えられますか。

現在、「食品ロス」が大きな問題となっている。令和〇年〇月〇日の〇新聞によると、「事業系食品ロスが53%、家庭系食品ロスが47%の割合を占める。」とある。一人一人が食品ロスを減らす努力をするべきだ。



- S1: 新聞記事という信頼性の高い資料を引用したのはよいと思いますが、「一人当たりの食品ロスの量」などを示すと、より書き手の考えの根拠として、ふさわしいと思います。
- S2: 引用した内容と書き手の考えがどうつながるのか、説明する文があると、より分かりやすく伝わると思います。

板書

資料を適切に引用し、考えが分かりやすく伝わるための工夫の例  
・信頼性が高く、自分の考えの根拠となる資料を引用する。  
・引用した内容と自分の考えとのつながりを補足する。 など



T: 黒板の例を参考に、前時に収集した資料を吟味しながら必要な工夫について考え、文書作成ソフトで下書き原稿を書きましょう。



S3: 県のウェブページの「秋田米を宣伝する東京でのイベントが好評だ」という情報は信頼できるし、「お米を観光資源にする」という私の考えの根拠になると思うから、つながりを補足して書こう。



S4: 私は、「空き家を活用して秋田を活性化しよう」という考えの根拠として、『日本の家づくり』という本から、現代の住宅の長所と短所についての情報を引用して書こう。

#### 生徒の学習状況を見取り、フィードバックする場面

T: (文書作成ソフトのコメント機能を使用)



S4さんが引用した資料は、信頼性は高いですが、あなたの考えとのつながりは弱くないでしょうか。空き家活用のどのような内容を根拠にすれば、考えが分かりやすく伝わるでしょうか。



S4: 空き家活用で地域が活性化した事例を引用すれば、私の考えの根拠としてふさわしくなるし、つながりも書きやすくなるな。信頼できるウェブページで、他県の取組などを検索してみよう。

#### ○授業づくりで確認する視点

学習活動における生徒の具体的な姿を想定することで、次の視点が確認でき、適切な指導につながります。 ④

- 本時のねらいと学習課題、学習活動が整合しているか。
- 本時の終末で、生徒が何をどのようにできていればよいかが明確であるか。
- 生徒が課題解決に向けて試行錯誤する場面があるか。
- 生徒に考えを交流させる際の目的や視点が明確であるか。
- 予想されるつまづきに対する手立てが明確であるか。

身に付ける資質・能力の具体的な状況を生徒と共有することで、生徒自身が学習状況を把握し、自らの学習の進め方を改善することにつながります。 ⑤

教師が学習状況を評価した結果を生徒にフィードバックし、価値付けたり、必要に応じて改善を促したりして、資質・能力の確実な育成を図ります。 ③

主体的な課題解決のための手立てとして、生徒が目的に応じて、図書や資料、新聞、インターネット等を選択し、必要な情報を収集して活用する場面を設定することも有効です。 ⑥